高校数学 Ⅲ 微分積分

tomiharu0317

2020年6月27日更新

※注意 高校数学なので厳密性を求めないでください.

1 関数の極限

1.1 関数の極限及び関数の連続性の定義

f(x) が関数であるとは: 1つの x を与えたとき,ただ 1 つの値 f(x) を返す対応 のことである.以後, f(x) は関数と仮定する.

定義 (関数の右極限)

関数 f(x) と定数 a に対して,x>a を満たしながら x が a に限りなく近づくとき,その近づくスピードに関わらず,常に f(x) が 1 つの値 b に限りなく近づくならば,

$$x \to a + 0$$
 のとき $f(x) \to b$

または

$$\lim_{x \to a+0} f(x) = b$$

で表し、 $b \in f(x)$ の $x \to a + 0$ における右極限値と呼ぶ.

定義 (関数の左極限)

関数 f(x) と定数 a に対して、x < a を満たしながら x が a に限りなく近づくとき、その近づくスピードに関わらず、常に f(x) が 1 つの値 b に限りなく近づくならば、

$$x \to a - 0$$
 のとき $f(x) \to b$

または

$$\lim_{x \to a-0} f(x) = b$$

で表し、 $b \in f(x)$ の $x \to a - 0$ における右極限値と呼ぶ.

定義 (関数の極限)

 $\lim_{x \to a+0} f(x) = \lim_{x \to a-0} f(x)$ が成立するとき、この右・左極限値を f(x) の x=a における極限値と呼び、

 $\lim_{x\to a} f(x)$ で表す.

定義 (関数の連続性)

$$f(a) = \lim_{x \to a+0} f(x)$$
 であるとき、 $f(x)$ は $x = a$ で右側連続である.

$$f(a) = \lim_{x \to a-0} f(x)$$
 であるとき、 $f(x)$ は $x = a$ で左側連続である.

左側連続かつ右側連続のとき, f(x) は x=a で連続である と呼ぶ. すなわち, 関数 f(x) が連続であるとき,

$$\lim_{x \to a+0} f(x) = f(a) = \lim_{x \to a-0} f(x) \Leftrightarrow f(a) = \lim_{x \to a} f(x)$$

を満たす.

以後, $f(a) = \lim_{x \to a} f(x)$ を連続の定義とする.

1.2 極限の計算法則 I

$$\lim_{x \to a} f(x) = \alpha, \lim_{x \to a} f(x) = \beta$$
 であるとき,

1)
$$\lim_{x \to a} (kf(x) + lg(x)) = k\alpha + l\beta = k(\lim_{x \to a} f(x)) + l(\lim_{x \to a} g(x))$$

2)
$$\lim_{x \to a} (f(x) \cdot g(x)) = \alpha \cdot \beta = (\lim_{x \to a} f(x))(\lim_{x \to a} g(x))$$

3)
$$\lim_{x \to a} \frac{f(x)}{g(x)} = \frac{\alpha}{\beta} = \frac{\lim_{x \to a} f(x)}{\lim_{x \to a} g(x)}$$
 (ただし、 $\beta \neq 0$ の場合に限る. すなわち、 $\lim_{x \to a} g(x) \neq 0$ のときのみ、商に関して分配可能である.)

1.3 極限の計算法則 Ⅱ

- 1) x=a の a を除いた十分近くで常に $f(x) \leq g(x)$ が成り立つとき, $\lim_{x \to a} f(x) \leq \lim_{x \to a} g(x)$ になる.
- 2) x = a の a を除いた十分近くで常に $f(x) \le h(x) \le g(x)$ が成り立ち、かつ、 $\lim_{x \to a} f(x) \le \lim_{x \to a} g(x)$ が成り立つならば、、 $\lim_{x \to a} h(x) = \lim_{x \to a} f(x)$ になる.(※ハサミウチの定理)

1.4 ハサミウチの定理の応用

1)

$$\lim_{x \to 0} \frac{1}{x} \sin x = \lim_{x \to 0} \frac{\sin x}{x} = 1$$

証明)

step 1)
$$0 < x < \frac{\pi}{2}$$
 のとき図 1 より,

 $\triangle OAB < 扇形 OAB < \triangle OBC$

すなわち,

$$\frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \sin x < \frac{1}{2} \cdot x < \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \tan x$$

したがって,

$$\sin x < x < \frac{\sin x}{\cos x}$$

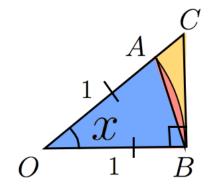


図1 「高校数学の美しい物語」から引用.

が成り立つ.

このとき、 $(0 < x < \frac{\pi}{2}$ で $\sin x > 0$ から) $\sin x$ で両辺を割ると、

$$1 < \frac{x}{\sin x} < \frac{1}{\cos x}$$

逆数をとれば,

$$\cos x < \frac{\sin x}{x} < 1 \tag{1}$$

ここで, $\lim_{x\to 0+0} 1 = \lim_{0+0} \cos x = 1$ であるため, ハサミウチの定理から,

$$\lim_{x \to 0+0} \frac{\sin x}{x} = 1$$

step 2) $-\frac{\pi}{2} < x < 0$ のとき、各面積が負になるため (1) の不等式が成り立たない.

したがって,ハサミウチの定理を使わず,直接極限を求める.

$$\lim_{x\to 0-0}\frac{\sin x}{x}$$
 より, $x=-t\ (t>0)$ とおけば, $\lim_{t\to 0+0}\frac{\sin (-t)}{-t}=\lim_{t\to 0+0}\frac{\sin t}{t}=1$ が成り立つ.

以上, step1 および step2 から, $\lim_{x\to 0+0}\frac{\sin x}{x}=\lim_{x\to 0-0}\frac{\sin x}{x}=1$ となるため,

$$\lim_{x \to 0} \frac{\sin x}{x} = 1$$

1.5 ∞ における極限

定義)

x を限りなく大きくするとき,(そのスピードに関係なく)常に f(x) が 1 つの値 b に限りなく近づくならば, $x \to \infty$ のとき $f(x) \to b$ または $\lim_{x \to \infty} f(x) = b$ で表し,b を($x \to b$ における)f(x) の極限値と呼ぶ.($-\infty$ も同じ)

1.6 関数の連続性とその性質

ある x の区間(x の集合)上のどの点 x=a においても f(x) が連続であるとき," f(x) はその区間(全体)で連続である"という.

定理1(連続関数の基本的性質)

f(x), g(x) がそれぞれ区間 I 上で連続であるとき,kf(x)+lg(x) (k,l を定数),f(x)-g(x), $\frac{f(x)}{g(x)}$ (ただし,g(x) は I 上で常に $g(x) \neq 0$ を満たす)は全て I 上で連続になる.

証明)

I上の任意の点 x = a において,

$$\lim_{x \to a} (kf(x) + lg(x)) = k \lim_{x \to a} f(x) + l \lim_{x \to a} g(x)$$
$$= kf(x) + lg(x)$$
$$= (kf(x) + lg(x))|_{x=a}$$

により、kf(x) + lg(x) は x = a で連続すなわち I 全体でも連続になる.

$$\Rightarrow f(x) - g(x)$$
, $\frac{f(x)}{g(x)}$ も全く同様にして証明できる.

定理2(最大値・最小値の定理)

f(x) が $a \le x \le b$ 上で連続であるとき、f(x) は $a \le x \le b$ 上で"必ず最大値と最小値をそれぞれとる".

定理3(中間値の定理)

f(x) が $a \le x \le b$ 上で連続かつ $f(a) \cdot f(b) \le 0$ であるとき,f(x) = 0 は $a \le x \le b$ 上で少なくとも 1 つの実数解をもつ.

:: 上を満たす点 A,B を連続なグラフ y=f(x) で結べば,y=f(x) は($a\leq x\leq b$ 上のどこかで)x 軸を横切らなければならない.

 \Rightarrow 横切る点が y = f(x) と y = 0 の支点, すなわち f(x) = 0 の実数解になる.

1.7 微分法

これは式を参照する例です.

$$E = mc^2 (2)$$

以下は参照. 4ページの式(2)によれば,...

$$\underset{\sim}{a_1} + a_2 + \cdots + a_n$$

$$\begin{array}{c}
\xrightarrow{xyz} \\
\overrightarrow{abc} \\
\ddot{A}, \dot{x} \\
\iiint \\
\sqrt{x} + \sqrt{y} \\
\operatorname{arg min}_{x} f(x)
\end{array}$$

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & \dots & a_{1n} \\ \dots & \dots & \dots \\ a_{m1} & \dots & a_{mn} \end{pmatrix}$$

$$\tag{3}$$

 $\frac{a}{b}$

$$E = mc^2 (*)$$

$$(a+b)^3 = a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3$$

$$(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$$
(5)

$$\sinh^{-1} x = \log(x + \sqrt{x^2 + 1})$$

$$= x - x^3/6 + 3x^5/40 + \cdots$$
(6)

$$\sin A = y/r$$
 $\cos A = x/r$ $\tan A = y/x$
 $\cot A = x/y$ $\sec A = r/x$ $\csc A = r/y$

$$s_1 = a_1, (7)$$

 $s_2 = a_1 + a_2, (8)$

一般に

$$s_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n \tag{9}$$

アインシュタインは

$$E = mc^2$$

と言った。a + (-b) = a - b

$$\begin{cases} (x,y) \\ \{0,1\} \\ 2^{2^2} a^{ky} a_{ij} \\ R^{\rho}_{\sigma\mu\nu} \\ \Re^{l}(\tau) \geq l \, \exists x, \\ y = ax^2 + bx + c \\ \\ \sum_{k=1}^{n} a_k a_1 + a_2 + a_3 + \dots + a_n \\ \sum_{k=1}^{n} a_k \\ \int_0^1 \\ \int_0^1 \\ y = \frac{1+x}{1-x} \\ f(x,y) \, dx \, dy \\ \sqrt{2}x \\ ij \\ a_{ij} \\ (x), [x], \{x\}, [x], [x], [x], \langle x \rangle \\ \{a_k \mid k \in \{1,2,3\}\} \\ \{a_k \mid k \in \{1,2,3\}\} \\ \{a_k \mid k \in \{1,2,3\}\} \\ \\ \begin{pmatrix} A \\ B \end{pmatrix} \\ \theta \\ \Omega \\ \mathcal{A}, \mathcal{B}, \mathcal{C} \\ a \div b \times c \oplus d \\ 3 \in 2n+1, 2 \notin 2n+1 \\ x \not\equiv y \\ p(x \mid \theta) \\ x \notin y, x \not\in y \\ \end{cases}$$

 $\left\{x \mid x \le \frac{1}{2}\right\}$

(10)

```
f: A \to B
\forall A, A \Rightarrow B
\Sigma\Pi\int \oint
\log x, \cos x, \lim
  \lim_{x\to\infty}f(x)
m \mod n
a \equiv b \pmod{n}
aeiūeoa
\overbrace{a + \cdots + z}^{\text{aeiueoa}}
(あえいうえおあ)
A
A, \alpha
B = 3.14
     sum1 = sum2 = 0;
     ans = 0
     n = int(input())
     for i in range(n):
          n += 1
     print(ans)
\pi
    abc abc abc
    x y z
```